

市民説明会の開催結果について

1 市民説明会の開催結果

今回の市民説明会では、現在の検討状況を市民の皆様へご説明し、骨子案へのご意見をお聴きするため、中央区役所にて全3回開催しました。

(1) 市民への周知について

- ・中央区内各自治会を通じて回覧
- ・区報及び市ホームページに掲載
- ・中央区内公共施設に開催のお知らせを設置

(2) 開催日時及び参加者数等について

回	開催日時	参加者数	資料のみ
1	平成 26 年 12 月 11 日(木) 19:00～20:00	20 人	1 人
2	平成 26 年 12 月 13 日(土) 10:00～11:20	30 人	-
3	平成 26 年 12 月 13 日(土) 14:00～15:00	17 人	2 人
	合計	67 人	3 人

2 市民説明会での主な意見等

(1) マスタープラン全般的な意見

- 都市計画マスタープランや緑の基本計画と、本マスタープランとの関係性を示してほしい。
- 本マスタープランの目標年度の設定を示してほしい。
- 本マスタープランの対象エリアを少し小さくてもよいと感じる。
- 本マスタープランに示す「リーディングプロジェクト」の実現時期を示してほしい。

(2) まちづくり施策に関する意見

- 身近な買い物ができるようにするという施策がわかりづらい。
- 区民まつりは中央区の拠点で行われていない。現状が、施策の「お祭りなどを守り、育てる」と整合していないと感じる。
- バスの運行ルートが与野本町駅に向かっていない。病院を周るバス路線があった方がよい。
- 中央区内の町丁名を「与野本町」にしてほしい。

(3) 中央区役所周辺に関する意見

- 中央区役所の建て替えについて、本マスタープランに示してほしい。
- 中央区役所周辺における鴻沼川沿いの美観を大切にしたい。
- 中央消防署を近隣に移転し、駐車場の拡大を図ってほしい。

(4) 与野本町小学校複合化の取組に関する意見

- 与野本町小学校北校舎の建て替えに向けた取組について、本マスタープランに位置付けを明確に示してほしい。

(5) 与野中央公園に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○与野中央公園の完成時期及び公園の整備する範囲を分かり易く示してほしい。 ○与野中央公園の西側には遊歩道が整備されている。公園を整備するに当たって、自然を残すなど公園の方向性等を示してほしい
(6) 本町通りに関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○本町通りの拡幅などの現状を示してほしい。 ○本町通り沿いの公有地をまちづくりに活用してほしい。 ○旧与野市時代、本町通りの拡張計画があった計画と当マスタープランの優先性を示してほしい。 ○本町通りの道路幅員の計画は、16mとなっている。拡幅する分、下がって建て替えしたところもあるが、現在の道路のぎりぎりに、新たに建ったものもある。 ○建て替え時には7m下がり、歩道を整備するなどがあったと思う。最近の新築の家は下がっていない現状である。道路を整備するには、お金がかかると思う。
(7) 道路整備に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○歩行者、自転車を通りやすくするのは、メインストリートではなく細かい道をやった方がよい。 ○与野本町駅から芸術劇場までの歩道の整備経緯を示してほしい。 ○都市計画決定されている未整備の道路と、本マスタープランとの位置付けを整合するべきと思う。
(8) 与野本町駅周辺に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○与野本町駅の周囲で、タバコを吸っていい人がいる。景観を意識してほしい。 ○与野本町駅の駐輪場の確保について、どのように考えているのかを示してほしい。
(9) 施策等の推進体制に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○実際に事業を進めるに当たり、縦割りではない庁内体制を示してほしい。 ○組織の立ち上げの支援とあるが、市民はどなたでも参加できる仕組みにしてほしい。 ○合併協定書で新都心に市の中核をつくるとしているが守られていないと思う。どのように、本マスタープランを推進し、方針等を守っていくのかを示してほしい。また、守れない場合の責任なども示してほしい。
(10) 策定の進め方に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ○マスタープランの策定の時期を示してほしい。 ○パブリック・コメントの期間を教えてください。
(11) その他の意見
<ul style="list-style-type: none"> ○同じ町内会で小学校が違うという実態がある。 ○巽橋のたもとにトラックが通ると振動がある。 ○このようなマスタープランについて、市内での他の例示を示してほしい。 ○中央区役所のトイレが汚いと感じる。

3 市民説明会の意見提出シート・とりまとめ結果

番号	ご意見・感想等	対応等
1	今日の議事録をとって意見をまとめ、回答をホームページで公表して欲しい。	説明会の意見等については、市ホームページの第5回策定委員会資料(その1)に本資料の一部を掲載しています。なお、今回市民説明会後に提出していただきました意見提出シートへの対応等を記載いたしました。
2	もう少し具体的な話が聞きたかった。1. いつ頃までに 2. 何が 3. どうなりそう。ありがとうございました。	本プランでは、まちの将来像の効率的な実現を図るため、まちづくりの取組をパッケージ化したリーディングプロジェクトを定めています。そのプロジェクト毎に、各主体の役割を示すとともに、施策の展開イメージとして短期・中期・長期に実施すべき項目を示しています。
3	将来を考えてのマスタープランをありがとうございます。市民が安心、安全で暮らせるまちづくりをお願いします。	ご意見ありがとうございます。
4	全国にも誇れるまちづくりをお願いいたします。	ご意見ありがとうございます。
5	本町通りの活性化には新大宮バイパスに地下鉄を通したら良いのでは？市役所周辺は自動車の駐車場が少ないので困る。	今後の具体的な施策を検討する際に参考といたします。なお、大宮バイパスに地下鉄を通した方が良いとのご意見については、現時点で計画はございません。
6	マスタープランはハード面が中心に思えますが、街づくりにおけるソフト面についてどう考えておられるのか。特に高齢化社会をむかえる中で、支え合う仕組みを作ることが住みやすい町を作る上で重要と考えます。与野の特徴は坂が多いことで、年寄りにはある意味住みにくい町です。徹底したバリアフリー化とか今後必要になるでしょう。高齢者が電動カーで安心して移動でき、買物がしやすい街づくりをお願いします。	まちづくりを行うに当たっては、本市としても、当然ハード面のみではなく、ソフト面の充実が必要と考えています。そのため、リーディングプロジェクト4「芸術劇場と地域が連携したまちづくり」やリーディングプロジェクト5「住環境を維持・改善するまちづくり」を掲げ、地域の住民や事業者が深く関係するルールやイベントなどに関する施策を示しました。今後は地域の住民や事業者、行政など多様な主体が協働しながら、地域のまちづくりを進めていくために必要な支援を行っていきます。具体的には、地域が主体となる(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討を進めていきます。また、お年寄りの暮らしやすさの向上については、主にリーディングプロジェクト6「安心して歩けるみちづくり」を掲げ、高齢者や子育て世代が健康的に歩いて暮らせる住環境の形成を目指すとしています。
7	現在のJRの与野本町駅が出来る時に、都市計画マスタープラン区民説明会に参加致しました(日時:2005年7月28日)。その時の内容と今回の与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン市民説明会との内容、計画の整合性がどうなっているか明確でない。部署ごとバラバラに動いているように思われます。以前の都市計画マスタープランの進捗はどうなっているか明確にして欲しい。その上に立っての今回のマスタープランであるべきと考えています。幹線道路の整備に優先して実施することが望ましいと考えます。	与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープランは、さいたま市都市計画マスタープランに即して策定しています。本プランの策定後は、さいたま市都市計画マスタープランの地域別まちづくり構想に位置付ける予定としています。また、本プランでは、まちの将来像の効率的な実現を図るため、まちづくりの取組をパッケージ化したリーディングプロジェクトを定め、施策を展開していく予定です。
8	未だ整備されていない与野中央公園に区役所を新設したらどうか？	与野中央公園は貴重なオープンスペースであり、公園機能の維持・充実に基本として考えているため、現時点では区役所機能全体の移転は考えていません。
9	与野本町駅はさいたま市の中心にも関わらず、隣接地の駅と比較して活気が無いと思う。人が集まるような魅力的な街を創造してほしい。	リーディングプロジェクト1に「中央区役所周辺をはじめとした3拠点の強化」を掲げ、中央区役所周辺(中心拠点)、与野中央公園(みどり拠点)、与野本町駅周辺(交通拠点)の各拠点機能を高めるプロジェクトを連動させながら推進し、地区内外の人々が集まる一体的な拠点づくりを目指すこととしています。
10	過去に本町通りの”まちづくり”案を実行していたのですが、いつの間にか実行が崩れてしまっている。長期的に継続する実行力を期待する(プロジェクト3)。本町通り沿いに小分割した住宅が野放しに建設されている。まちづくりの方針と食い違いがでると取り返すには長期の時間と費用がかかる。早く着手する事を求める(プロジェクト5)。	リーディングプロジェクト3として「歴史を伝える本町通りのまちづくり」を掲げ、本町通りの沿道の未活用の空間を活用していく仕組みをつくり、歩行者や自転車の安全性を高めるとともに、街並みルール作りを進め、「歴史のまち」としての魅力やにぎわいを創出していくことを目指すこととしています。さらに、リーディングプロジェクト5に「住環境を維持・改善するまちづくり」を掲げ、住民が「ずっと住み続けたい」と感じるような、また転居を考える住民からも選ばれるような魅力的な住宅地を目指すこととしています。なお、まちづくりの取組に当たっては、地域の住民や事業者、行政など多様な主体が協働しながら進める必要があるため、今後は地域が主体となる(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討を進めていきます。
11	旧与野市で作成しているプランとの整合性はどの様になっているのか(古い規制、旧与野市で作ったものは生きているのか)(都市計画)	与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープランは、さいたま市都市計画マスタープランに即して策定しています。本プランの策定後は、さいたま市都市計画マスタープランの地域別まちづくり構想に位置付ける予定としています。
12	自転車道の整備(安全確保)を！。狭い生活道は一方通行などでメリハリを！。	まちづくりの方針2を踏まえ、まちづくりの取組2-4に「歩行者・自転車が安全に通行できるようにする」を掲げ、取組の展開として、自転車での移動を快適にすることを示しています。
13	このマスタープランは20年後と説明されていたが、20年度のプランである事を明記すべき。(住民によるPDCAのC(チェック)をいつ実施するか等も記述すべき。)	計画期間については、本プラン第1章の「2計画期間」に明記しています。また、PDC Aについては、本プラン第6章に示し、リーディングプロジェクトは内容に応じて数年での実施、プラン全体は5年に1回実施することとしています。
14	20年後の社会インフラを考えて議論されていないように考えてしまう。20年後例えば、買い物はネットで出来、公共サービスは電子申請が当たり前の時代になっているだろう。自動車も自動認識ブレーキ等安全配慮され、防犯もカメラ、施設等の発達で安全性は高まると考える。(身近な場所で買い物などと記述しているが、近辺は沢山の店舗もあります、シャッター街を作ろうとしている様に見えない。)与野本町周辺地区(対象地区)だけでまちづくりは出来ない。20年後のモデル地区を創造しようとしているのなら、もっと社会インフラ・ソフトウェア等、俗に言うICTをもっと前面に出して議論すべき。	本プランは、今後の少子高齢化、人口減少の進展、さらにはインフラやハコモノの老朽化等の課題を踏まえ、地域全体でまちづくりを推進するプランとしています。その個別具体的な取組において、ICTといったツールを活用することも可能と考えます。
15	今できる事をやらずに、未来にすべてを託しているように感じる。「区民まつりなど新都心で開催していると・・・。」誰かが発言していたが、確かに、歴史を伝えるお祭りなど守っている様に見える。夏祭りは本町通りだが、クリテリウムの開催で「大正時代まつり」、「区民祭り」は開催時期が早まり、クリテリウムが優先されている様に見える、説明と実際が異なり残念である。又、中央区の対話集会での問題をも解決できずと先送りしている。現在があつて未来ではないのか。今ある問題も解決できず、住民を説得するのは難しいのではないかと。	本プランでは、まちの将来像の効率的な実現を図るため、まちづくりの取組をパッケージ化したリーディングプロジェクトを推進し、地区全体のまちづくりをけん引して一体的に取り組みむこととしています。さらに、リーディングプロジェクト毎に、施策の展開イメージとして短期・中期・長期に実施すべき項目を時系列に整理しました。また、まちづくりの取組に当たっては、地域の住民や事業者、行政など多様な主体が協働しながら進める必要があるため、今後は地域が主体となる(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討を進めていきます。

16	ハード面ばかりが先行して、ソフト面がよくわからない。 「みんなで育てるまち」と言っているが、策定の議論は平日ばかりで、住民意見は無視。議論は休日も設けるべきである。(若者の意見を聞く機会を与えることが重要。) 公共サービスを受けやすくするには、毎週土曜日は役所をオープンにする等のソフト面での対策も(月末だけでは不足です。)	ソフト施策をさらに充実するためには、地域の住民や事業者と協働して取り組むべきと考えおり、今後は地域が主体となる(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討を進めていきます。
17	小学校と公共施設の複合化の危険性 「付属池田小学校での事件」を考えると複合化の危険性を考えるべきである。公共施設等(市役所、プール、図書館)は、以前から集約されて複合化されている。介護施設、幼稚園等、なんでも複合化すればよいとは思えない。	リーディングプロジェクト2に掲げる「与野本町小学校と周辺公共施設との複合化」につきましては、少子高齢化が進行する中、当該施設を多様な教育の場とするともに、地域住民が交流できる場の形成や防災機能の強化を目指して、地域住民等の参加により検討しております。これまでに主に安全、交流、利用・運営の視点から小学校と複合化する公共施設とその配置案について意見やアイデアを提案いただいたところです。今後につきましても地域の皆様に継続的に参加して頂き、与野本町地区にふさわしい複合施設として整備できるよう取組を進めてまいります。
18	交通安全・渋滞緩和のために、歩道の設置促進をお願いするとともに、信号交差点のラウンドアバウト化を提案します。特に区役所、学校、駅、芸術劇場等の歩行者と自動車が入り交錯することが多い、本町通り、中央通り、赤山通り、たつみ通り、与野停車場線の交差点は、ラウンドアバウトを導入することで車速が制限でき、歩行者の安全と渋滞緩和が期待できます。さらには無信号化により、停電時にも混乱が生じにくいという防災的な機能も期待できます。	本プランはまちづくりの方針等を定めるプランとなるため、具合的な整備手法等については、今後検討する際の参考とします。
19	自然・緑のネットワーク形成促進に期待します。古くから市街地が発達したこの地域では、子供たちが自然に親しむ場所がほとんどありません。小学校の総合学習などをお手伝いしていても、授業時間内で多くの動植物の触れ合える場所が近くにありません。中央公園は是非とも生物多様性に富んだ公園としていただきたいです。	リーディングプロジェクト1のプロジェクト②に「与野中央公園整備によるみどり拠点の強化」を掲げ、みどりと水辺が豊かな居心地の良い空間の創出とともに、広場や複合スポーツ施設等を配置し、地区内外から多くの人々が訪れ交流できる場となる公園をを目指すこととしています。なお、現時点では、公園のコンセプトの一つとして、「自然・歴史・文化を取込んだ郷土色あふれる公園づくり」を考えています。
20	防災・防犯対策に関連して、戸建て住宅の空き家率などを確認してください。	平成25年度住宅・土地統計調査より、中央区の空き家率は約1割となっています。
21	図書館、いこい荘、公民館、プール、体育館を一つの建物にまとめる(住民の交流)。区役所の建物を充実させて食堂のスペースを地域住民との交流の場にする。	今後具体的な検討に参考とします。
22	本町駅前是一般車を利用しやすいスペースを作る。歩道・車道・自転車道の区分けをする。	リーディングプロジェクト1のプロジェクト③に「与野本町駅周辺の利便性の向上」を掲げ、その中の検討事項の1つとして、駐輪や駐車場の利便性の改善を位置付けています。
23	芸術劇場があるので、その途中は芸術性を感じさせる雰囲気(手形ではなく)が欲しい。	リーディングプロジェクト4に「芸術劇場と地域が連携したまちづくり」を掲げ、地区外から人々を呼び込む強化を図る取組を進めることとしており、その中で芸術劇場と地域の魅力を高める雰囲気づくりの具体策について検討していきます。
24	小学校、中学校、高校があるのでその雰囲気に合う書籍店、文房具店等必要。	書籍点や文房具店は民間の店舗であることから、その維持・充実や誘致について、本市が直接取り組むことは予定していません。今後、学校利用者や周辺住民の話し合いの中で、解決すべき事項として共有されれば、地域とともに、行政の立場から可能な支援を検討していきたいと考えます。
25	有料のエリア循環小型コミュニティバスを運行する。	コミュニティバスを導入するに当たっては、「コミュニティバス等導入ガイドライン」に基づき、交通空白・不便地区を対象に検討を進めております。当地区は、交通空白・不便地区に含まれていないため、現時点で運行する予定はございません。
26	町全体をスマートシティとする。公共施設の緑化、発電、蓄電、水の循環設備、各家庭、アパート、マンションも同様の設備を整える。	今後、地域との協働でまちづくりを検討する中で参考とします。
27	電柱の地中化、緑化地帯を造ることで災害に強いまちとする。	まちづくりの方針2を踏まえ、まちづくりの取組に「水害に強いまちをつくる」、「延焼火災に強いまちをつくる」を掲げ、総合的な治水対策を進めるとともに、建築物の不燃化等を促進し、災害リスクを軽減する取組を推進します。
28	10年、20年後を考え人口減少を止めて年齢構成のバランスを保ち、環境に配慮した、出来るだけ国を頼らないでこのまちをつくっていくために行政、産学、多くの住民(年代に関わらず、一部のの人々に限定せず)の力を出し合う事によって可能と考えます。	本プランの将来像を実現するためには、地域の住民や事業者、行政など多様な主体が協働しながら、地域のまちづくりを進めていくことが望まれます。本プランでは、地域が主体となる(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討を進めていきます。